

研究の成果と課題

1 成果

職員の共通理解や児童の実態把握が深まるとともに、改善した各種計画（全体計画、年間指導計画等）に基づいて、充実した人権教育を推進することができた。

全教育活動において「常時指導」「間接的指導」「直接的指導」が構造的に指導できるようになるとともに、「他者とのかわり」を意識した様々な学習や活動が企画・運営されるようになった。

人権スローガン「自分も大切、相手も大切、みんな大切！」に基づいて、教師も児童も保護者も様々な活動に取り組む体制ができるとともに、それぞれの人権意識が高まってきた。

児童一人一人の自尊感情や自他肯定感がよい方向に推移してきており、学習や生活に対する意欲が高まるとともに、他者に対する温かく思いやりのある言動が多く見られるようになった。

心を込めて挨拶をしたり、感謝の言葉「ありがとう」を素直に言えたりする児童が増えてきた。

人権講演会や人権主張大会の開催、人権だより「トライアングル」の地域への回覧、小中連携や地域連携を図った「あいさつ運動」や「人権の花いっぱい運動」の実践等により、校種間及び地域との結びつきを強めることができた。

2 課題

今までの3年間の実践を生かして、今後も人権教育をさらに充実継続させていくこと。

家庭・地域との連携や校種間の連携を図った実践をさらに充実させていくこと。

学校だよりや人権だより、Webページ等、双方向性のある通信をより一層発信していき、家庭や地域と学校との結びつきをさらに強める努力をしていくこと。